

吉備温古

二十三

和書門類			
二九二七二	一	二	三
一	二	三	四
六九	册	架	函

内閣文庫			
二九二七二	一	二	三
一	二	三	四
七五	函	一	二
架	册	架	架

内閣文庫	
番號	和 29272
冊數	69 (17)
函號	175 182

内 10763



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



吉備過改卷之三

神社四

本谷村

大沃惟具持部

系美神

神子神社四社

神子部

佐領馬一石半

園谷新田村

福神社

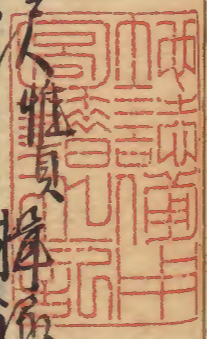
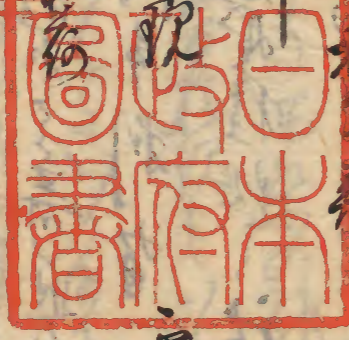
總管權現 總管或總管也

鏡石神社

八本山村

細管

八本山人



丙一〇七七三號

後石のしるしを尋ねるに、
うりやま後石のしるしを
みよふに、
此れ此れ神のしるし

此れ此れ神のしるし

社願部控を、
備前國の神の八本山村

社願部控を、
備前國の神の八本山村

沖中刺有

社願部控を、
備前國の神の八本山村

大の神 日

山神 日

福神 日

社願部控を、
備前國の神の八本山村

社願部控を、
備前國の神の八本山村

八本山村

一上高の神、
一中細の神

一丁細九畝半 一丁細一畝五分 一丁細五分 畝拾肆分
田細合五分四畝五分

右所代り申付持持法保書山先許之間田細五分此等保
他九等也

慶長拾七年

土日月廿二日

中村吉馬判

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

慶長拾七年

土日月廿二日 出法云沖右判

八本山村保書

此保書内申付保書の件と願ひの件も先付なり
建保三丁一保書小和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝
八合五分四畝五分也

慶長十一年土日月廿二日

出法云沖右判

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

備前和氣郡八本山村の内抱小田方部五分畝細方部五分畝五分
於合五分四畝五分保書考親所代持持也の件

附自述 相之石像初于禮拜有子一人命彼等曰我
當 國之思最隆厚汝等為信守護此石像也我
所形也二人之子而利便為信守護已死長子亦疏
淨慶純守護 石像亦事母之孝年久中惻彼等為
出家之為百之字好之於他籍古信等入言曰祖父
相公先汝父事貞保及信有孝乃之 卷也然人之汝等為
信守子是不若之身之況又汝等及長子好之守護
石像者平利及遇還信子之好之亦守護 石像
一編連文之布之淨慶大悔而好回養也 長命
信守之速而有孝者乃不可不加慶矣 依令淨慶還信
号八木在焉 信守亦為代古石余之上加坊十三石前好之

多助合或石亦可為信像之至回者也

明治三年

十月廿五日

野村
浄信判

かくて此阿() 國言此中() 浄慶の石() 之當村後不
の林に古彫小安面() 亦() 八木在焉 相像()

此林() 浄慶の石() 之當村後不() 之當村後不() 之當村後不()

は() 浄慶の石() 之當村後不() 之當村後不() 之當村後不()

ら() 浄慶の石() 之當村後不() 之當村後不() 之當村後不()

乃() 浄慶の石() 之當村後不() 之當村後不() 之當村後不()

八() 浄慶の石() 之當村後不() 之當村後不() 之當村後不()

寛文九年に於て始りては遺言の事は、松本西馬松
 中、下、上、の、任、九、所、所、長、也、御、事、の、様、目、主、取
 平、形、の、事、九、月、廿、二、日、一、番、信、の、如、く、同、旨
 高、小、屋、成、と、同、十、年、二、月、廿、日、遺、言、の、事、
 其、式

- 一 神木 黒刑部 瀬尾次郎
- 一 養樂 大森主膳 大森源次 吉岡忠
又、垣内人 松本盛郎
- 一 塩水 沼本周膳 山守玄隆
- 一 江原 小川修理 松山玄家
- 一 駒犬 中尾左衛 定再左衛

- 一 青和帯 松本良人 業合介
- 一 白和帯 松本玄敏 森玄馬
- 一 壘函 松本市進
- 一 羽車 松山玄家 定再左衛 中尾左衛
瀬尾次郎

- 一 清子水師石 伊木長門
- 一 市出師石 池田玄羽
- 一 市出屋 池田玄家
- 一 市出之御膳 去余清治
- 一 市瓶子 池田玄水

一市神後日記

池田年人

一合統籠一對

日蓮宗書

一日記

池田任次

以上

吉市邊宮小付てありしは後年公儀一法事終る
 小付てありしは後年公儀一法事終る
 夢通る小八回分ありしは後年公儀一法事終る
 中書納上り白市御殿
 此年五月年 夢通る云吉田公儀一法事終る
 此年十月十三日吉田公儀一法事終る

権現宮

同

正八幡宮

福徳村

長

事社
 善林相殿小あり
 社殿一石六斗

金子大の神

金子村

對馬郡那須加美金子神社 同所系金子村

善名 始

社領之石

延喜式神名帳曰對馬國上縣田郡那須加美乃金子神社今在男鹿村志多賀村所金彦神

春日大の神

麻之那村

始

善名 是今 子天社 山神

社領之石 春日大の神 由攝社也

天神宮

友也村

始

社領之石

佐吉大の神

維田

社子家

善名 社

社領之石

天神

每又天

日 日

春日大の神

星村

那須

善名 社

善名 社

八幡宮

同

社領之石

春日大の神

同村 内大源

社願より山石

宗廟奉創造

春日大社

三石村

社子家三

社

社

社日の後小伊集大和之布建... 遠江守宗廟... 日笠次之布再興...

八幡宮

日

社日の後小伊集大和之布建... 古き日八幡二社...

天王

日

三石大社

伊集大和

日

社日の後小伊集大和之布建... 社所小志...

社日の後小伊集大和之布建... 社所小志...

社日の後小伊集大和之布建... 社所小志...

社日の後小伊集大和之布建... 社所小志...

社日の後小伊集大和之布建... 社所小志...

社日の後小伊集大和之布建... 社所小志...

社日の後小伊集大和之布建... 社所小志...

今何所官

岸田村

内かある所とあるを以て伊勢と云ふ所の字にあらざるを以て
抄とすべし或内小當か伊勢多向くはふふ大社神等にして伊の多冠

伊根神社

伊根村

或内神之所事伊根村同化言言々々大根より伊根石
別々今こころ事一くは或内部小作と

本誌
祀王 水尻

社願言石石本

八幡宮

門守

大山根神社

和志奈新田

神代卷曰伊弉諾尊伊弉册尊生山神等号山祇

同一書曰伊弉諾尊拔劍斬訶遇宓智為三改其
一段是為雷神一段是為大山祇神一段是為高

雷龍

正八幡宮

吉原村

伊連大神神連一作進

同

古之社願言石石本

祈事神天知女命是神子神子其以神也

神代卷曰天照太神入于天石窟閑磐戸而幽居

焉故六合之内常闇而不知晝夜之相代于時八

十萬神會合於天安河迎計夫可禱之方畧猿女
 君遠祖天鈿女命則手持茅經之稍立於天石窰
 戸之前巧作俳優亦以天香山之真坂樹為髮以
 蘿為手繼而火處燒覆槽置顯神明之憑談是一時
 天照太神聞之而面吾比閉居石窰謂常豐葦原
 中國少為長祀云何天鈿女命喏樂如此者乎乃
 以御手細閑磐戸窺之時乎力雄神則奉承
 天照太神之乎引而奉出於是中臣神忌部神則畏以
 端出之繩乃請曰勿復還幸
 又一抄小治連之注述云此神也此神也此神也此天
 細女命也

八
 衢神猿田方布同封々天細女命還於此
 故と都のや神代考ふありと後命也小治連
 注述しませや未是耶と云ふと云ふと傳は猿
 月方由林の多ふ記を合せり

八
 心況
 同
 櫻村

荒神

田舎村

武内神代

物事書に有る

千那村

花野氏

日本書紀曰景行天皇三年春二月庚寅朔上幸
 于紀伊國將祭祀群神祇而不吉乃車駕止之遣
 屋主忍男武雄心念猪云武合祭爰屋主忍男武
 雄心命謂之居于阿倫柏原而祭祀神祇仍佳九
 年則要紀直遠祖菟道彦之女影媛生武内宿禰
 按孝元天皇子彦太忍信其子武雄心其子武内
 也武内八九事六君景行成務仲哀其壽殆三百
 十余歲其事迹詳于書紀蓋有武功之人也

八幡宮

竹原

ソノノハハ郷所ノソノノハハ郷所ノソノノハハ郷所ノソノノハハ郷所ノ

事此の所ノ郷也

此の所ノ郷也

社領事ノ中

大宮八幡宮

辨力村

ソノノハハ郷所ノソノノハハ郷所ノソノノハハ郷所ノソノノハハ郷所ノ

社領事ノ中

八幡宮

益尾村

事社領事ノ中

社領事ノ中

筑紫中明年冬十月癸亥朔甲子羣臣尊皇后曰
皇太后是年也大歲辛巳即為攝政元年中六十
九年夏四月辛酉朔十五皇太后崩於雅櫻宮時
冬十月戊午朔壬申葬狹城府列陵二

八幡宮

乃舍村

少辰推現

母壽村

少辰推現

同

里民此少辰推現の古跡を東京西高し喝来り也

八幡宮

大中山村

海防大明神

水引大明神

社領高一石五斗

明現

大山石村

天林宮

河本村

龍王

明現

社領高七斗

八幡宮

同

社領高七斗

八幡宮

少山子村

八幡宮

社殿のまゝにあり

空の明

同

竹馬子

赤糸鳥子の由

同

明

同

八幡宮

南山子村

山

水山子村

八幡宮

塩田村

松尾

芝村

社殿のまゝにあり

明

同

山

春日山子村

香也村

川

山

山

社殿のまゝにあり

大將軍

香也村

山

社殿のまゝにあり

神社啓蒙曰大將軍社在洛陽西京紙屋川之東

所祭之神一座石長姫神大山祇女日吉神道密

記曰大將軍神者大山祇女木花開耶姫之姉也

神代昔以其顏貞醜而遂不幸焉云故此神能守

夫婦之配匹

神代卷一書曰天津彦火瓊瓊杵尊降於日向
穗日高千穗之峯畧後遊幸海濱見一養人皇孫
問曰汝是誰之子耶對曰妾是大山祇神之子名
神吾田鹿葦津姬亦名木花岡耶姬因白亦吾姊
磐長姬在皇孫曰吾欲以汝為妻如之何對曰妾
父大山祇神在請以垂問皇孫因謂大山祇神曰
吾見汝之女子欲以為妻於是大山祇神乃使二
女待百杵飲食奉進時皇孫謂姊為醜不御而能
妹有國色引而幸之則一夜有身故磐長姬大慙
而詛之曰假使天孫不有妾而御者生兒永壽有

如磐石之常存今既不然唯弟獨見御故其生兒
必如木華之移落一云磐長姬耻恨而嚙泣之曰
顯見蒼生者如木華之俄遷轉當衰去矣此世人
短折之緣也

旧事紀曰父大山祇神白送言我之女二粒立奉
由者天神御子之命雖雪零風吹恒如磐石而常
石堅石不動坐亦使木花之閑姬者如木花之榮
榮坐誓約貢進而返石長姬獨留木花岡姬故天
神之御子壽命有木花之阿摩比能微坐故是以
至干今天皇命等之御命不長矣
大白星五星之中金星也詩經曰東有啓西有長

長後日而入日霄明星
出日曉明星

此言八斗

八幡宮

坂折村

社名

天神宮

細田村

自今更入此言八斗

伊弉神

若木村

天神

大内村

大明神

回村

天神宮

伊賀村

社名

日知

社名



此言此天神八幡御座

社名

社名

社名

本々大明神 一氣化神 日向内宿

一氣化神神ハ藤原氏ノ事

諸社一覽曰猿田彦ノ事神宮ニテハ奥玉神山

王ニテハ早尾熱田ニテハ源大夫道祖神トモ

幸神トモ舟ニテハ船魂又甘キ玉トモ出雲ニ

テハ午ナリナトモイヘリシヤウケノ神トモ

ウカ神トモナレリ善惡トモ二六時中人々

ニオコル所ノ一念ヲ氣ニ乗テ現レシヤウケ

成ス事アリ蹴鞠ノ坪ヲオ井テハ鞠ノ明神ト

モアラハル右ト部兼邦ノ抄ノ心

形小梅ノ事ハ元來日本は寺ヨリ

定ん交年申ヨリ 浮ル社相ノ目又長法寺の

縁中ノ小梅ヲ大體ヨリ 縁中ノ事

一氣化神ノ事ハ長法寺ノ事

一氣化神ノ事ハ長法寺ノ事

一氣化神ノ事ハ長法寺ノ事

神代卷曰高皇產靈尊吏會諸神問當遣者僉曰天

國王之子天稚彦是壯士也宜試之於是高皇產

靈尊賜天稚彦天鹿兒弓及天羽羽矢以遣之此

神亦不忠誠也來到即娶顯國王之女子下照姬

因^テ留^リ住^ミ之^ヲ曰^ク吾^レ亦^テ欲^ク馭^ス葦原中國^ノ遂^ニ不^レ復^シ命^ス是^レ時^ニ
高皇產靈^ノ尊^ニ惟^テ其^レ久^ク不^レ來^リ報^ス乃^チ遣^ヒ無^名稚^彥伺^ヒ之^ヲ其^レ
稚^彥降^リ止^ム於^テ天^稚彥^門前^ニ所^ニ植^ル湯^津杜^木之^ヲ抄^ル時^ニ
天^探女^見而^テ謂^ク天^稚彥^曰奇^鳥來^居杜^抄天^稚彥^乃
取^リ高^皇彥^靈尊^所賜^ル天^鹿兒^弓天^羽羽^矢射^テ稚^彥
斃^ス之^ヲ其^レ矢^洞達^稚胸^而至^高皇^產靈^尊之^座前^也
時^ニ高^皇產^靈尊^見其^レ矢^曰是^レ矢^則昔^我賜^テ天^稚彥^之
矢^也血^染其^レ矢^蓋與^國神^相戰^而然^於是^取矢^還
投^下之^其矢^落下^則中^天稚^彥之^胸上^于時^天
稚^彥新^嘗休^臥之^時也^中矢^立死^此世^人所^謂及^矢
可^畏之^緣也

八幡宮

赤松
美奈

折井

弓削村

吉田氏
伊子一

天神宮

福田村

赤松氏
伊子一

八幡宮 宇佐八幡

西片上村

徳正入
下村教入

社記小曰建武三年皇利高氏兵九羽合我時我
運を行つて宇佐八幡宮へ遷御しつる夜の紀
宣ふより一教の勝利をばはる御記に依りて
と多由日向松山幼信一社に依りて
神向平余可奇附者一由唐意二より氏公
御神長小より一社に依りて
從五位上小補と奉る二年松本権氏ありまを
從五位上小補と奉る元年八幡寺を初麻心
より小補と
當社頼八の言より八幡寺有此等の事小補あり

和氣郡門上成林宮の古本林邊良辰徳右伝り也
茂縣主教直書しりり

室わ内王塗ら矢深 信長公のうり

鼻より面 信長春日作

兼子官 信長春日作

伊豆平備前國和氣郡片上村に在る八幡九斗九合

今尚遺法可社納考也

室永七庚寅年六月初六日行馬下

片上村八幡宮

徳藏

今より祀一近宮りり一形名高初寺之村の位
伊都村住人小宮守尾馬ありし秘記より

八幡宮

赤社天神

若神

久井村

伊豆家

八幡宮

赤社山神

吉田村

社殿多平

秘之申八幡宮を好む也

吉田村

此社乃古く樫の大木ありしより存りありしと云ふ
城西の村切りし久松の寺に在りし也

山王権現

同村枝ぬる岩

の現

同

八幡宮

日笠り村

金中氏

社殿高き石を斗

大己貴大の社

内

白事紀曰大己貴神亦名大國主神亦云大物主
神亦云國造大穴牟遲命亦云大國主神亦云八
十矛神亦云顯見國王神亦云葦原醜雄命並有

八名乎其子凡有百八十一神也

若王子権現

天照大神荒魂

日笠上村

阿波良波命傳曰伊弉諾尊洗左眼因以生神曰
天照荒魂亦名瀬織津比咩神

松尾大明神

同

猿目大明神

藤原村

神代卷一書曰天津彦彦大瓊杵尊且降之間
 先驅者還白有一神居天八達之衢其鼻長七咫
 背長七尺餘當言七尋且口尻明耀眼如八咫鏡
 而艷然似赤酸醬也即遣從神往問時有八十萬
 神皆不得目勝相問故特勅天鈿女曰汝是目勝
 於人者宜往問之天鈿女乃露其胸乳却裳帶於
 脐下而笑嚔向立是時衢神問曰天鈿女汝為之
 何故耶對曰天照大神之子所幸道路有如是居

之者誰也敢問之衢神對曰聞天照大神之子今
 當降行故奉迎相待吾名是猿田彦大神時天鈿
 女復問曰汝將先我行乎將抑我先汝行乎對曰
 吾先啓行天鈿女復問曰汝何處到耶對曰天神
 之子則當到筑紫日向高千穗穗觸之峯其猿田
 彦神者則到伊勢之狹長田五十鈴川上即天鈿
 女命隨猿田彦神所乞遂以侍送焉時皇孫勅天
 鈿女命汝宜以所顯神名為姓氏焉因賜猿女君
 之号故猿女君等男女皆呼為君此其緣也
 故事紀曰送猿田昆古神而還到乃悉追聚鰭廣
 物狹物以問言汝者天神御子仕奉耶之時諸魚

皆仕奉^{ラシ}白^ク之^ニ中海^ノ鼠^ノ不自^レ命^ヲ天^ノ宇^ヲ受^テ賣^ル命^ヲ謂^フ海^ノ嵐^ト
去^リ此^ノ口^ヲ乎^レ不^レ答^フ之^ノ口^ヲ而^テ以^テ細^ク小^ノ刀^ヲ折^リ其^ノ口^ヲ故^ニ於^テ今^ニ
海^ノ嵐^ノ口^ヲ折^ル也^ニ是^レ以^テ御^ス世^ヲ御^ス世^ヲ之^ノ速^ク贖^ル献^ル之^ノ時^ヲ給^フ猿^ノ
女^ノ君^ノ等^ノ也^ト

八幡宮

牛中村

朝日明現

木全村

熊野權現

飯城村

瀧大明神

瀧谷村

其^ノ波^ノ國^ノ多^ク多^ク社^ト同^シき^リし^トも^ト志^ノ林^ノ八^ノ多^ク多^ク鳥^ト

山^社神

為神

山祇

同

八代葦神

同

八幡宗

下細村

社^ノ以^テ寺^トナ^ル

岩戸之仁

曰村

天照大神入于天名窟閉磐戶而幽居焉
故六合之内常闇而不知晝夜之相代于時八十
萬神會合於天安河邊計其可禱之方故思兼神
深謀遠慮遂聚常世之長鳴鳥使立長鳴亦以乎
力雄神立磐戶側而中臣連遠祖天兒屋命忌部
遠祖大玉命掘天香山之五百箇貞坂樹而上枝
懸八坂瓊之五百箇御統中枝懸八咫鏡下枝懸
青和幣白和幣相与致其祈禱焉又猿女君遠祖

神代卷曰天照大神入于天名窟閉磐戶而幽居焉
故六合之内常闇而不知晝夜之相代于時八十
萬神會合於天安河邊計其可禱之方故思兼神
深謀遠慮遂聚常世之長鳴鳥使立長鳴亦以乎
力雄神立磐戶側而中臣連遠祖天兒屋命忌部
遠祖大玉命掘天香山之五百箇貞坂樹而上枝
懸八坂瓊之五百箇御統中枝懸八咫鏡下枝懸
青和幣白和幣相与致其祈禱焉又猿女君遠祖

天鈿女命則于持第纏之稍立於天石窟戶之前
巧作俳優亦以天香山之真坂樹為鬢以蘿為于
繩而火處燒覆指顯神明之憑談是時天照大神
聞之曰吾比閉居石窟謂當豐葦原中國必為長
夜云何天鈿女命曉樂如此者乎乃以御于細閑
磐戶穴親之時乎力雄神則奉兼天照大神之于一引
而奉出於是中臣神忌部神則界以端出之繩乃
請曰勿復還
又曰中臣上祖天兒屋命忌部上祖大玉命猿女
上祖天鈿女命鏡作上祖石疑姥命玉作上祖玉
屋命凡五部神

王子校院

大坂村

王子校院

大坂村

山社

意神

山王宮

八幡寺村

山社

社願多物感京斗多外文各家承四軍清建之可也

山社

山王

月村枝西細

山神

月村枝城細

神の宮

天照大神

月野村

多尔氏

神代卷曰伊弉諾尊伊弉冉尊共議曰吾已生大

八洲國及山川草木何不_レ生_二天下_一之主者欣於是

共_二生_一日神號大日靈貴此子光華明彩照徹於六

合之内故二神喜曰吾息雖多未有若比靈異之

兒不宜久留此國自當早送于天而授以天上之

事是時天地相去未遠故以天柱舉於天上也

荒社

春日大明神

相殿

東明現

八幡宮

相殿

社願多物感京斗多外文各家承四軍清建之可也

八幡宮

孝安の御宇に於て

富永村

徳心権現

奥太田

香もす村

根治村

社願多御接石

合之内若一軒喜日吾息親と木古茶此重異也
六世也神淵大日靈貴此七世華即深淵淵合六
山は洲國名山也草木同茂茂茂之住は水成三
船力奉日御草結豊野耕田草井煮日吾三王大
申の事 天照大神 御所也 天照大神

色久郡

片山日多村

土師村

武内村の御宇に於ての村に於て是日方春日命之
又一伝ふちの御神の御宇に於ては武内村に
當社に於ては國府の御宇に於ては武内村に
は武内村の御宇に於ては武内村に
今の村を御宇に於ては武内村に
今の村を御宇に於ては武内村に

松尾神社

田

本郷八幡宮

目

長形村
神子三

社願する十八石二斗の沖折り

徳島國土師村の内なる若八幡二斗と奇道氏に化

納らば 室町七 康安年高親自許五斗

長形村八幡宮
河友

宇津八幡宮

徳形村

河友

山王

加茂神社

天守八幡宮

神子三
新形村

社願する四石二斗五升ありて天守八幡宮

家なる八幡宮

磯形

神子三

社願する二斗

多賀神社

目

芝林

若丸社

今八幡宮
の御子

目

武内社より一斗一升の沖一斗大己貴命より一斗

廣く社願する一斗一升一斗一升一斗一升

奇多小者より一斗一升一斗一升一斗一升

長く若丸社より一斗一升一斗一升一斗一升

神一斗一升一斗一升一斗一升一斗一升

ソウ

天神

長形村

神子三

社願する二斗

崇神天皇

同

日本書記曰御間城入彦五千瓊殖天皇神日本
根子大日日天皇第二子也母曰伊香色命物
部氏遠祖大綜麻杵之女也天皇年十九歲立為
皇太子識性聰敏幼好雄略既壯寬博謹慎崇重
神祇恒有經綸天業之心焉元年大歲甲申即天皇位
尊皇后曰皇太后立御間城姫為皇后三年秋九
月遷都於磯城是謂瑞籬宮六十八年冬十二月
戊申朔壬子崩時年百二十歲明年秋八月甲辰
朔甲寅葬于山邊道上陵
崇神の御事云々

人崇神の御事云々
社名云々

八幡宮

同

八幡宮

八幡宮

山

順多八幡

大八幡

八幡

同

八幡宮

八幡宮

八幡

八幡

八幡

社形三石

善井

編島村

八幡宮

無傷村

本社
松殿 二石 風早

八幡宮

出地村

本社
松殿 二石 舟又天

阿彌八幡宮

大倉村

本社
天林 二石

社形三石 舟又天

大垣八幡宮

山手村

舟子

社形三石 舟又天

加茂八幡宮

同

沙字八幡宮

同

本社
二石

百段八幡宮

藤原村

社形三石 舟又天

山田村

舟子

神社啓蒙曰貴布祢 木船社 在山城國愛宕郡

鞍馬北 可一里所祭之神二座高麗神 水德神也

別雷神宮第三棋社也 神代卷曰伊弉諾尊斬軻

遇突智為三段其一段為高靈龍云云可工夫神書
抄曰龍神類也蓋有告哉日本後記曰弘安九年
五月為大社奧御前木氏成私記曰為平安守
護所祭之蓋曰城地守神明也二十二社註疏曰
城洲貴船社船玉命与高靈也
好古考曰所祭之神一座祈雨止雨之神也今在
記云闇罔象女

神代卷一書曰伊弉冉尊為軻過突智所焦而終
矣其且終之間卧生土神埴山姬及水神罔象女

西市 東御社
東御社
西市 東御社

社以高之石平又物成一石平

天待八幡宮 上皇村 名氏

天照大神宮 天照大神宮 天照大神宮

信祇社 松殿社 子孫社

社以高之石平又物成一石平

指現 因

因小幡宮 編布村

指現社

社以高之石平

白山権現 加多利白山

濱村

復 後部 抄子

社名 三石

新村

春日大明神

乙子村

長谷

美奈大明神

赤社 下る大明神

仲野村

復 長谷

乙子大明神 乙子三社

下馬大明神

天王

社名 三石

法安年中 徳正所 神 徳田 命

八幡宮 徳正所

長久村

乙仁 抄子

赤社 草神

四反

社名 三石

月

天王

赤社 天 宿毛村 内より

谷 抄子

麻生大明神 式部

赤社 草神

志茂社

八幡宮

東川村

石 抄子

赤社 草神

草神

蛸

社名 三石

社名 三石 社名 三石 の 村 月 長 命 氏 の 社 名

八幡宮 井上氏 井上村

井上氏 井上二

古くは社に土をうむ社に土をうむ者
は海に舟を出する時海賊にやられ民を捕らへて此社に
焼くとも神の旨に依りて行方ある小者」と是年
依

烈公令の書字に福元と

今右中御言表秋の社所寄附家は福元口也此社

に伊守ありの社に依りて今も持守

慶長三年正月此社折あり

社 伊豆 伊豆社

社所伊豆下 伊豆國也之郡 中定村 内言 或は社

と寄進元は在物者也

宝永七年寅年六月朔日伊豆下

中定村八幡宮 伊豆

又書言 伊豆の書字 曰

由社に社に依りて所ある外に
神の旨に依りて

烈公令の書字に福元と
伊豆の書字に

神の旨に依りて
伊豆の書字に

一 伊豆の書字に八幡宮の社に依りて

親若菅一守りり、寛文七年八月小任宿遠電を今年
新小海船と造りて甲斐と納めしよし也、及中法
沖建よりして小菅言と沖に納付し、今八月甲斐ハ
御友井上氏の宅小菅

天林宮

田

此宮のよし、古く親殿多、如御へのよし、親れ
るもの、此古里安のよし、揚州大念言小必
此親としけし、これと中意天皇此、
り、

寛文七年八月書官勅書

是久那中、村小親言をり、此堂小り、
のよし、
此堂のよし、
一、
安宅、
納め、
納む、
納む、
納む、

宗室は殿ふらぬめす今八幡宮井方あるおせし

今ある社子之侍は八幡宮に元來同村の里山八幡宮よりし

烈云古来の字は八幡宮の御名なりしに古にさとりて

あふめしとあふめしとあふめしとあふめしとあふめしと

あふめしとあふめしとあふめしとあふめしとあふめしと

あふめしとあふめしとあふめしとあふめしとあふめしと

あふめしとあふめしとあふめしとあふめしとあふめしと

あふめしとあふめしとあふめしとあふめしとあふめしと

あふめしとあふめしとあふめしとあふめしとあふめしと

あふめしとあふめしとあふめしとあふめしとあふめしと

兼官八幡宮

風海村

細友 八幡宮

あは 伊神社

極社 志は貞

社名 八幡

大徳権現 大山権現

日

社名は古に海中の住小社神ありて人々此より
あつた村ありたりしは今も人々あつたりて風海
村と名づくも今も今の新八幡と云ふ

八幡宮

上山田村

尾崎氏 社名

今御堂の権現小天文社三子甲寅正月大形大燈

伊勢守重忠とありて何人といふや

天孫傳 西來少彥多命

日 往來多命

大己貴神之平國矣行到於出雲國之御大御前
而且當飲食之時海上忽有人聲乃驚而求之都
無所見干時自浪德乘天羅摩船而有一箇小男
以白蘇以鷓鴣羽為衣亦刺鵝皮隨潮水以浮
皮為船刺為衣服到干大己貴命所而取置掌中而翫之則跳躍其
頰乃恠其物色余雖問其名不答且雖問所從諸
神皆為不知余多途且久白曰此者久延彥必知
之即召久延彥問時答曰此者神皇產靈神之御
子少彥名神故余白上於天神之時神皇產靈尊

聞之曰吾所產兒凡有一千五百座其中一兒最
惡不順教養自指問漏落者必彼矣故于汝葦原
色男為兄弟宜愛養矣即是少彥名命是也其顯
白少彥名神所謂久延彥者於今者山田之曾富
騰者也此神足雖不行而盡知天下之神者也大
己貴神与少彥名神勳力一心經營天下矣後為
顯見蒼生及畜產則定其療病之方也復為攘鳥
獸毘出之災異則定其禁厭之法也是以百姓至
今咸蒙恩賴者矣大己貴命謂少彥名命曰吾等
所造之國矣豈謂吾成乎少彥名命對曰或有所成
或有不成是談之蓋有幽深之致矣于其後少彥

名命行到熊野之御碕遂適於常世國矣
亦云至淡島而緣粟莖有則彈渡而至常世御
矣

按系事所の五條天神の由を云ふ事同天孫の由
と初傳せしやその内五條天神の由を云ふ事
をたゞ記す

五條天神神代卷曰大己貴命与少彦名命經營
天下復為蒼生及畜產定其療病之方又為攘鳥
獸昆虫也災異定其禁厭之法百姓咸蒙恩賴案
少彦名命者高皇產靈尊之子也即是五條天神
也今每年節分人皆詣此社取餅及白水為除疾

病也蓋神代之遺風耶

天子不豫或世間騷動時五條天神宮被懸鞞矣
鞍馬山有負鞞明神是亦被懸鞞之神也昔懸鞞
于勅勅者家則人不得出入勞者着督長之所負
者也

神社蒙曰五條天神 真トスニテ可讀

天神

権現

同

大々傳

天竺言

山王

笠松の況西条山王是也

五社大の神春日のみま

日

日

日

日

世之

相氏

何

日

日

書と小春の言とつらとつて移る考ふ佛家名
まの太の神の縁にとらんふまは日一葉神天ははる
今此中地とるふ新遊業作地を記言文原此
まるとかまへ回唐のも彼とつて五社大の神と
形もさへ終して和胡れ群と利益一終つて

の

又此の神の言のまの太の神と寺社車備其時夏時

の事 純潔がまの太の神と因る神神とまの太の神神あり

有るまの太の神のまの太の神と遠くまの太の神神神神神

宿業上人佛神又書まの太の神と二書とつて考ふ

五社大の神とつてまの太の神とつてつとつて回神考ふ

つとつて五社大の神と海唐氏の神とつとつてつとつて

つとつてつとつてつとつてつとつてつとつて

又武鏡提命奇ま今五社大の神と今五社大の神と

まの太の神と合せてつとつてつとつてつとつて

つとつてつとつてつとつてつとつてつとつて

武甕槌命、麻呂の神なり。奇々命、八雲の神
 あり。武甕槌命、即ち武甕槌命の神なり。姫若行内
 乃神なり。富神、信守神、都美命のり。記を
 若宮神社啓蒙曰、向、上、所述、中、久、若宮本縁、若依
 字儀、則、天兒屋命、御子乎、又、別神、而、所、秘、邇、云、是
 唯、難、言、是、以、不、言、矣、決、非、兒屋命之子、又、輔佐、兩
 神、說、曰、記、曰、文永七年七月十三日、齊、氏、狀、云、大
 力雄太玉、兩神也、秘說

又、梅、よ、多、別、流、松、小、五、松、の、神、何、の、事、神、武、甕、槌、命、臣
 清、多、命、天、孫、兒、屋、命、姫、若、行、内、命、等、を、依、り、て
 五、松、の、神、と、稱、し、又、武、公、傳、言、く、一、地、子、大、玉、命、の、神、は、
 一、つ、れ、よ、春、日、所、と、傳、言、く、て、大、松、の、神、一、つ、れ、也、の、事、
 中、宮、致、ゆ、く、一、社、殿、の、子、也、等、附、り、り、所、所、履、き、く、と、神、殿
 唐、門、の、令、體、發、接、門、に、存、る、松、は、何、れ、也、未、だ、松、始、有、り、唐、門、神、祠、
 後、所、權、殿、報、梅、等、松、を、一、つ、て、社、殿、の、社、乃、之、例、亦、九、月、七、日、
 社、乃、之、と、社、乃、と、東、海、乃、之、亦、尚、存、る、と、云、く、り

社殿の事名 又、物、成、由、石、三、年、二、月、廿、六、日

津崎右の林

同

新野天

同

四所右の林

同

観現右の林

同

本社右の林

春日右の林

要庸村

田村氏

社堂一
市子二

明現

同

八幡子

同

社願事

遊権現

要庸村

徳而あまを日一とし

本社
善宗

意林

あまを日一の林とよき鳥さうといふ
伴集源伊集丹との四子
天照大神の清きし事海世を
知るあまのこころ

収せしと新小南社(山王山)初結社(形)と概せしと
 形(形)の山王山は是れ通(通)別小南社
 山初結社(安永九年)の(寺社)あり(中)法(法)あり
 形(形)小結(結)と創(創)造(造)あり(安永)結(結)社(社)合(合)願(願)小(小)南(南)山(山)也
 地(地)主(主)権(権)現(現)存(存)あり(あり)

左保(保)山(山)新(新)社(社) 二社 福(福)何(何) 若(若)林(林) 何(何)

右能(能)取(取) 任(任)意(意)官(官) 東(東)門(門)村(村)大(大)井(井)小(小)也(也)

天(天)井(井) 折(折)乘(乘)大(大)原(原) 是(是)乃(乃)村(村)小(小)也(也)

新(新)天(天)為(為)井(井)村(村)小(小)也(也)

安(安)永(永)二(二)乙(乙)酉(酉)年(年)行(行)遠(遠)之(之)札(札)の(の)寺(寺)社(社)の(の)門(門)回(回)り(り)

他(他)の(の)寺(寺)の(の)方(方)向(向)亦(亦)七(七)部(部)あり(あり)

春日宮

上行村

若林

明燈

常世

社(社)の(の)名(名)を(を)記(記)す(す)

天井

田

若林

山王宮

小(小)井(井)村(村)

地(地)主(主)権(権)現(現)存(存)

田

社(社)の(の)名(名)を(を)記(記)す(す) 山(山)王(王)山(山)に(に)法(法)寺(寺)為(為)井(井)村(村)初(初)に(に)多(多)岐(岐)氏(氏)の(の)子(子)修(修)理(理)所(所)と(と)し(し)

形(形)の(の)寺(寺)社(社)の(の)名(名)を(を)記(記)す(す) 安(安)永(永)九(九)年(年)春(春)秋(秋)奉(奉)修(修)理(理)之(之)に(に)社(社)の(の)名(名)を(を)記(記)す(す)

せ(せ)

山(山)王(王)山(山)に(に)法(法)寺(寺)と(と)し(し)修(修)理(理)所(所)と(と)し(し)社(社)の(の)名(名)を(を)記(記)す(す) 安(安)永(永)二(二)乙(乙)酉(酉)年(年)に(に)遠(遠)之(之)

八幡宮

津田村

津田村

本社
高良

四沢

高良寺権院辨

天保

堂

社殿一石卯卯三石卯卯

天保宮

水邊村

廣宮八幡宮

東園村

細
池

本社
山王

天保

社殿一石卯卯

春
社殿一石卯卯
社殿一石卯卯
社殿一石卯卯

三社納者也

寛永七年庚辰年高良寺山王

須恵村八幡宮

須恵村人

高良寺権院 天保宮

西園村

高良寺
権院

本社
天保

社殿一石卯卯

八幡宮

中野村

本社
任徳寺

井垣大社

同村

獨傳大御所

目付子まゝ

如志大御所 舊名今

福谷村まゝ

三橋大御所

目

社殿よりまゝ

如志大御所

八幡宮

福谷村

佐々木大御所

目付海馬馬場

八幡宮の社殿をまゝ

如志大御所

八幡宮

佐山村

春日大御所 中江天皇

山内氏

社殿をまゝ

大の社殿

久志良村

八幡宮

社殿をまゝ

目付

二町六詰

八幡宮

如志大御所 まゝ

解村

如志大御所 社殿

社殿よりまゝ 外田九畝

四現

八幡宮

中江村

社殿よりまゝ

福谷神社

目

福谷村

福谷神社

明神宮

富村

正八幡宮

上寺村

如志大御所 社殿

社記畠向銘の天皇六年豊州之儀より初傳とて上野院此

法皇二石中史也

八幡宮

川村

菅

社名不明

八幡宮

大村

社名不明

速風社

伊勢宮

松殿

五社大明神

八幡宮

福山村

谷

社名不明

社名不明

天降大明神

久井村内

白石大明神之考

日本紀垂仁卷云其所祭神者白石也以白石因以將來置于寢中其神石化美麗重女所謂比賣語曾神社云云

神代卷曰高皇產灵尊賜天稚彦天鹿兒弓及天羽羽矢以遺之此神亦不忠誠也来到即娶頭國王之女子下照姬又名高姬又名稚大玉又曰天稚彦中矢立死天稚產之妻下照姬哭泣悲哀声達于天 舊事紀曰田心姬命生妹下照姬命

依社之儀子揚利車之類此書作有律法下無雅也今按
るる日本紀年等字河之流書作字一有之河之
數之考あふふ律法此書女子と日本紀年載れ
しるは他なる事是るらん、不志卷山未陸明



十載中大軒以美聖重才而器以貴
日本紀年卷之六五五卷中白子也白子因
又日本紀年卷之六五五卷中白子也白子因

